

ICT活用教育の新潮流～ChatGPT、VR、メタバースの教育利用～

1. 内容

①ChatGPT

②VR、メタバースの教育利用

2. 所感

ChatGPTは嘘をつく。びっくりしました。なるほど、自分について聞いてみるとわかるのですね。正しい解答をしてくれる完璧なAIをイメージしていましたが、そうではないのですね。忘れてしまいそうで、かつ難しいことですが、ChatGPTは嘘、間違いがあることを前提に活用する必要があることに気づかされました。危なかったです。続いてChatGPTが教育に与える影響を問かけるとどんな答えが返ってきたかをご紹介します。

メリットは、24時間体制で時間や場所にとらわれずに利用することが出来る、語彙力や文法などの言語能力の向上に繋がる可能性がある、自己学習や課題に対する理解を深めるメリットが出る、逆にデメリットは、誤った知識を習得する可能性、自ら考える力や探求心が衰える可能性、プライバシーや倫理的な問題が発生する可能性がある、いいことだけ答えて、悪いことは濁すのかと思いきや、自分をわかっていて正直ですね、だから信じてしまっていたのですが、ChatGPTは嘘をつく、間違えることもある、忘れないようにします。使い方には気を付けないといけませんが、便利そうです。学校においても、調べ学習や授業準備、研修企画、そしてアイデアの壁打ちなど活用できそうなところも多いとのことで、優秀な秘書としての進化は止まらないとのことでした。

ChatGPTの次は、VRとメタバースについて、学校における様々な実践事例をご紹介します。水害などの危険体験、宇宙ステーション体験、失敗した実験などに向いているというお話は納得でした。質疑の時間には、これらの教育利用により、学校の統廃合、不登校対応における活用、探求学習の充実などが考えられ、これらの可能性にワクワクしました。まだ実験段階ですが、実験段階でも広くあたりまえに学校で使われると、学校が先進的で楽しい場所になるだろうと思いました。中野さん、今日は、ICT活用教育の新潮流、これは面白いと勉強させていただきました。ありがとうございました。

以上